

平成27年度 活動報告 (年報)



改訂版木曽路ナチュラルトレッキングMap



国有林見学会参加者（春季）

林野庁 中部森林管理局
木曽森林ふれあい推進センター

平成28年3月31日発行

〒397-0001 長野県木曽郡木曽町福島1250-7

TEL 0264(22)2122 FAX 0264(21)3151

E-mail : kiso-fureai@maff.go.jp

一年を振り返って

平成27年4月に木曾森林ふれあい推進センター職員2名が交代し、新たな体制で平成27年度が始まりました。

今年度新規の取り組みを中心として簡単に紹介させていただきます。

5月28日と11月5日に国有林見学会（春・秋）を開催しました。

これは、中部森林管理局の国有林は木曾川の上流部に多く分布し、その下流では愛知用水を活用して、農業、工業、家庭等の用水として多く利用されています。また、名古屋市白鳥は、江戸時代の初期から名古屋城の築城を契機に木曾山等から豊富な森林資源を背景とした木材の流通が盛んに行われた歴史があります。名古屋市を中心とした都市住民の方々に、木曾川源流の国有林を訪ねて頂いて、木曾地域の林業のあゆみ、木材運搬の変遷、木材の出材地、木材の輸送（伐採地、小谷狩り、森林鉄道）等白鳥貯木場にたどり着いた木材の先端部分を見学して頂くことにより、江戸時代から現在まで深いつながりをもつ木曾との関連について理解していただくことを目的に行いました。

6月18・19日には、木曾悠久の森第一回管理委員会が開催され、取り組み行程表の検討、写真コンテストや現地見学会の開催、新たな保護林の見直しが検討されました。また、初めて専門部会が開催され、森林総合利用・地域振興部会では赤沢自然休養林を現地視察し、アスナロ稚幼樹の取り扱い等について検討が行われました。3月9日には、森林総合利用・地域振興部会が開催され、赤沢自然休養林の利用形態としてアンケート結果の分析報告、新たなガイド事業や悠久の森パンフレット作成についての検討が行われました。

8月19～21日には、木曾悠久の森現地見学会が開催され、全国の大学や研究機関等の皆様に、この新しい取り組みと、木曾の森林の研究フィールドとしての価値を知っていただくために、今まであまり知られてこなかった木曾地方の最深部に位置する「木曾悠久の森」の見学会やワークショップが開催され、当センターから試験地や研究箇所の説明員を担いました。

8月29・30日には、木曾地方の振興及び豊かな自然・文化を通じて、森林・林業・水資源についての理解を深めていただくことを目的に、公益財団法人おんたけ休暇村、中部森林管理局及び木曾広域連合が連携し、「玉滝・木曾支援ツアー」を開催しました。

12月には、林野庁で開催された平成27年度国有林野事業業務研究発表会に「木曾駒ヶ岳における植生復元作業について（10年間の取組み）」と題して平成17年度からのボランティアによる高山における植生復元作業及びモニタリングの結果について発表しました。

今年度を締めくくり、来年度へ繋げる取り組みとして、パズルラリーがあります。木曾地方の国有林等に所在する、特色ある森林内の散策路を利用者に分かりやすく説明すると共に、木曾への集客効果により地域振興を図ることを目的に25年度に作成したナチュラルトレッキングマップを改訂し、併せて地域産木材の活用を図るため当マップに掲載している遊歩道を巡るパズルラリーの取り組みを開始しました。

業務内容の一部の紹介となりましたが、1年間多くの方々と森林を通してふれあうことができたのも、当センターに勤務していたからできたことであり、大変有り難く思うとともに、協力して頂いた多くの関係者の皆様に感謝いたします。

[所長：岩本道彦]

活動内容等

第1	温帯性針葉樹林「木曾悠久の森」における取組	…	1
1	木曾悠久の森	…	1
2	木曾悠久の森に関する取組	…	2
第2	NPO等との連携による自然再生の推進及び森林環境教育等の支援	…	5
1	自然再生の推進	…	5
2	森林環境教育支援	…	12
第3	支援体制の整備	…	14
1	地元自治体・NPO等の関係団体に対する支援	…	14
2	木曾川下流住民による森林整備	…	16
3	小中学校の教職員を対象とした森林・林業体験学習会の開催	…	17
4	「森林ボランティア・NPO連携推進会議」の開催	…	18
5	木曾地方支援イベントの開催	…	20
	年間の活動内容	…	22

当センター設置の目的

- 1 国有林野等を活用して、NPO法人等が行う自然再生、生物の多様性の保全、その他森林整備の推進及び森林の保全の確保を図る取組に対する技術的指導その他の支援に関すること。
- 2 教職員等が行う森林の有する多面的な機能の発揮に関する教育及び学習に対する技術的指導その他の支援に関すること。

活動フィールド

主な活動区域を木曾森林管理署及び南木曾支署管内とし、ニーズに応じて局管内全域で活動する。

沿革等

平成16年	4月	1日	木曾森林環境保全ふれあいセンター設置 (所在地：長野県木曾郡日義村)
平成17年	11月	1日	木曾町誕生による所在地名変更 (所在地：長野県木曾郡木曾町日義)
平成18年	4月	1日	所在地の移転 (所在地：長野県木曾郡木曾町福島 5471-1)
平成24年	4月	1日	所在地の移転 (所在地：長野県木曾郡木曾町福島 1250-7)
平成25年	4月	1日	名称変更 「木曾森林ふれあい推進センター」

第1 温帯性針葉樹林「木曾悠久の森」における取組

1 木曾悠久の森

天然のヒノキ、サワラ等を交える木曾地方の森林は、良質の木材産地として古くから歴史的建造物の維持や地場産業の継承・振興に大きな役割を果たしてきました。

一方で、温帯性針葉樹がまとまって自然度の高い状態を構成している木曾地方の針葉樹林は現在では世界的にも非常に貴重なものとなっています。

このような歴史と木曾地方の温帯性針葉樹林の保存と復元を図る取組を通じて、先人たちが守り育ててきた森林からもたらされる、さまざまな恩恵を将来にわたって維持できるようにすることを目的に、平成26年4月「森林生物多様性復元地域」を設定し、一般公募により愛称を「木曾悠久の森」として取組を始めました。

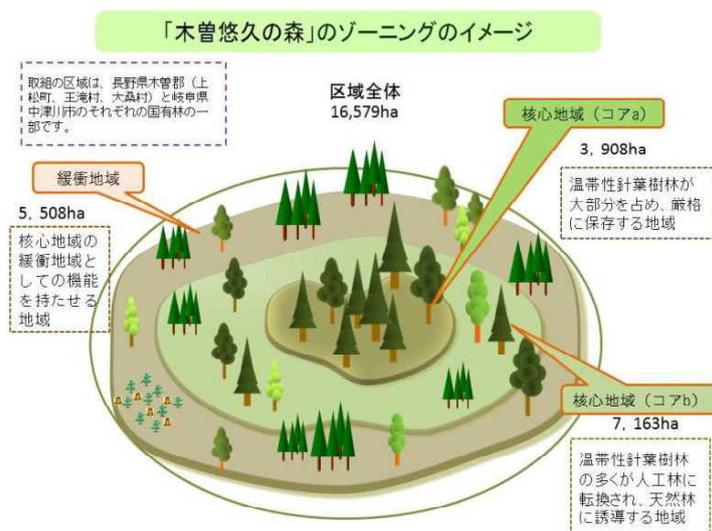
木曾悠久の森のエリア内には、希少で貴重な天然林のほか人工林、観光や保養としての森林があり、築城や神社・仏閣の用材に使用されてきたこと、最近では森林浴やキャンプ等に利用されるなど、古くから現在に至るまで、人との関わりの中で息づいてきたところです。

中部森林管理局では、平成26年度から有識者や地域関係者等による管理委員会を設置して、取組区域における森林の取扱いや具体的な取組の検討を進めていますが、今年度は写真コンテストの開催や研究者等を対象にした見学会の開催など、広く情報発信に努めているところで、当センターにおいても局・関係署等の連携を通じて、各種行事のサポートを行いつつ、「木曾悠久の森」のPR等を行っています。



赤沢自然休養林
(長野県木曾郡上松町)





付知峡自然休養林（岐阜県中津川市）



温帯性針葉樹林（長野県木曾郡王滝村）



阿寺溪谷（長野県木曾郡大桑村）

2 木曾悠久の森に関する取組

（1）地域住民等への情報発信

長野県大桑村の阿寺溪谷管理運営協議会では、木曾悠久の森について学び、保養・レジャー等で多くの方が訪れ、また、取組区域となっている阿寺溪谷の魅力の理解をさらに深めることを目的として、11月14日に「木曾悠久の森」講演会を大桑村野尻地区館で開催（大桑村、木曾森林管理署南木曾支署共催）しました。

当日は、大桑村内外から88名が参加され、木曾悠久の森の管理委員でもある大住克博鳥取大学農学部教授から「木曾ヒノキ林ーその自然としての価値」、また、当センター所長から「木曾悠久の森の取組」と題して講演を行いました。

大住教授からは、木曾ヒノキ林の歴史や特徴を挙げ、「資源としての価値だけでなく、木曾の温帯性針葉樹林をはじめ、周囲に植生している植物は世界でここしかない生物多様性を持っている」と解説され、また、当センター所長からは、国内の歴史的重要な建造物に木曾ヒノキが大きな役割を担い、木の文化に支えられてきた時代背景とともに、保存・復元に関してこれまでの経過や現在の取組状況、森林の将来像等について説明しました。

今回の講演会は、地域の方に取組への理解を深めていただく良い機会となり、今後も地域をはじめ、幅広い層にわたり情報発信等のPRに努めていきたいと考えています。



大住鳥取大学教授の講演の様子



センター所長からの説明に耳を傾ける参加者

(2) 取組区域内におけるレクリエーション利用の調査

～赤沢自然休養林でのアンケートの実施～

「木曾悠久の森」の取組区域には、赤沢（長野県上松町）・付知峡（岐阜県中津川市）の各自然休養林をはじめ、阿寺溪谷などの森林レクリエーション機能が高い森林が含まれ、今後、温帯性針葉樹林の保護との関わりが重要な課題となってきます。

管理委員会では、レクリエーション事業との重なり方やゾーニングを今後検討していくうえで、自然休養林等の利用者実態の把握が必要との見解が示されたことから、赤沢自然休養林における施設利用等に関するアンケート調査を中部森林管理局計画課及び木曾森林管理署と連携して実施し、当センターではアンケートの取り纏めと、平成11年度に実施したアンケート調査との比較分析を行いました。

1 アンケート実施期間

平成27年7月中旬～11月上旬

2 アンケート協力者（回答者数）

男性130名 女性115名 計245名

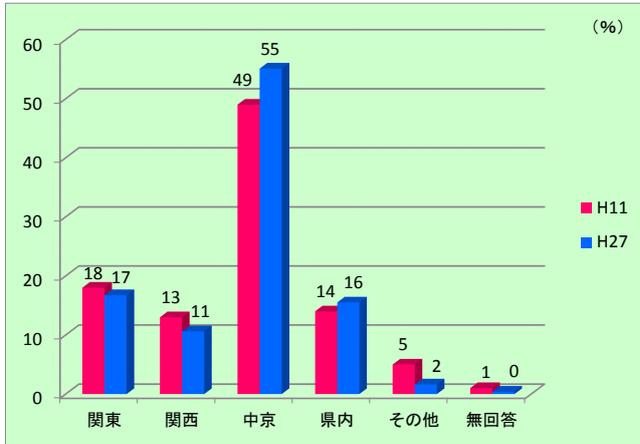
（平成11年度調査826名に対して29.7%）

3 アンケート結果の概要等

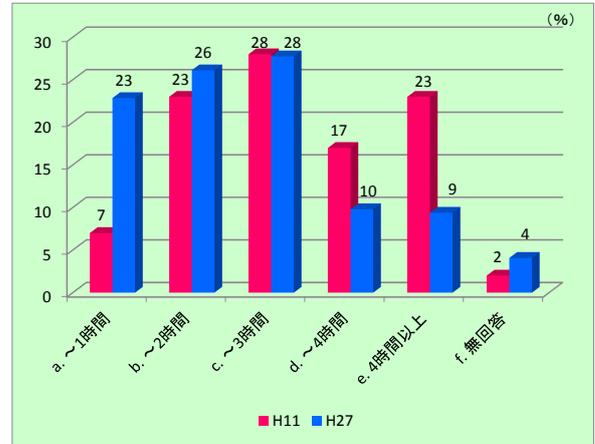
ア 愛知・岐阜県を主とした中京方面からの来訪者の割合（5割程度）、散策コース（森林鉄道と歩きやすい森林鉄道周辺のコースに偏る傾向）は、11年度調査とほぼ同じであった。

イ 滞在時間は1時間未満の割合が増加（H11:7% → H27:23%）、4時間以上では減少（H11:23% → H27:9%）するなど、滞在時間が短くなる傾向となった。

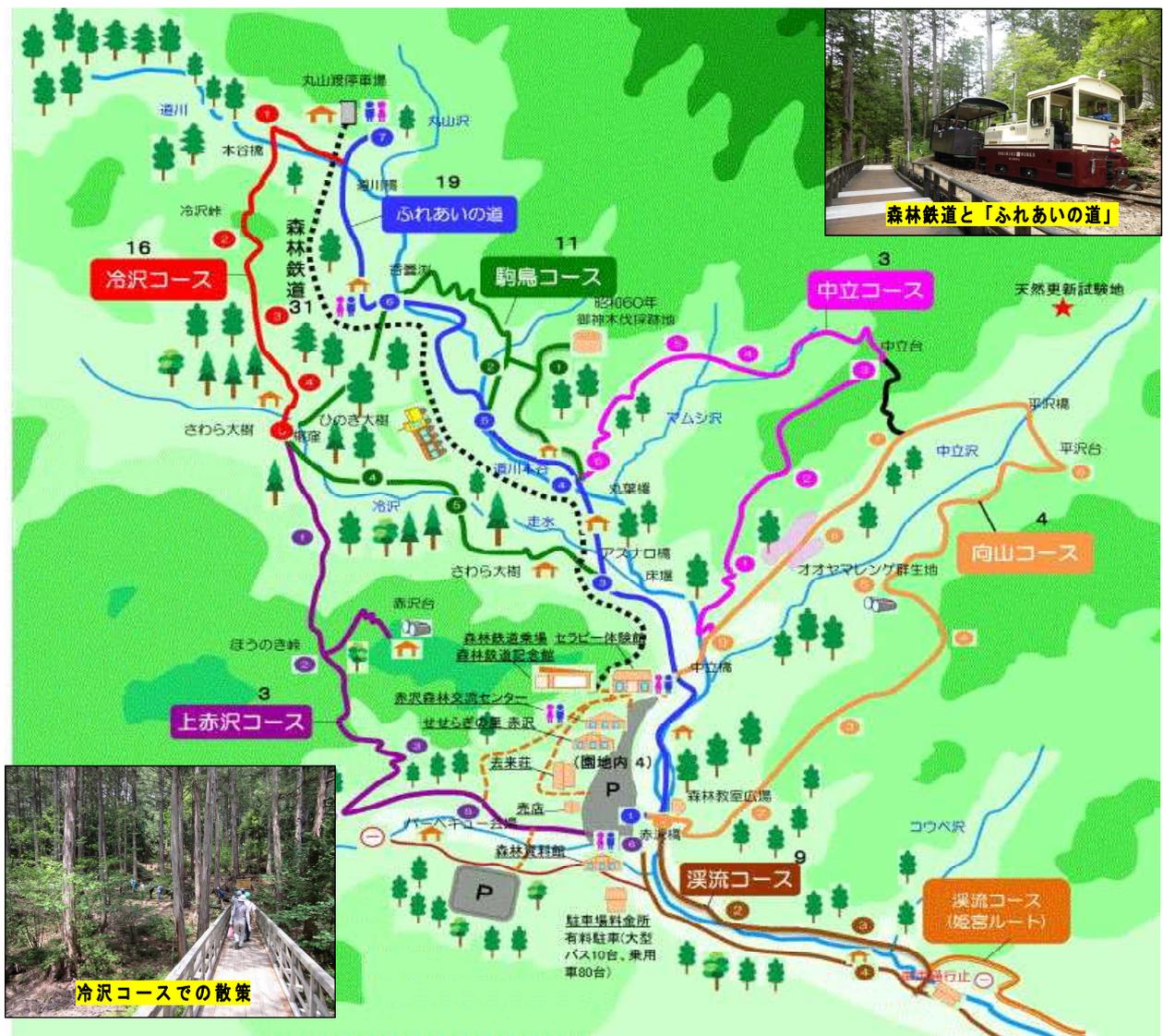
今回の調査では、利用者の「気軽に散策を楽しむ」といった趣向は15年前と大きな変化は見られないものの、1～2時間程度の比較的短い時間で散策する傾向は大きくなってきていることが示唆され、木曾悠久の森とレクリエーション事業との関わり、特にゾーニングを検討していく上での貴重なデータが収集ができたのではないかと考えています。



利用者の地域別の割合



滞在時間の割合



※ コース名に記載している数値は延べ利用者数に対する割合(%)。

赤沢自然休養林 コースマップ

第2 NPO等との連携による自然再生の推進及び 森林環境教育等の支援

1 自然再生の推進

趣旨

NPO等との連携を図りつつ地域ニーズ等に対応した自然再生の取組みを推進し、自然再生活動事業を実施します。

自然再生の取組み自体は国有林とNPO等との連携のもとで実施しています。

(1) 木曾駒ヶ岳における植生復元対策事業

1 事業概要

中央アルプス木曾駒ヶ岳周辺においては、登山者による踏み荒らしや、大量の降雨、降雪等による砂礫の移動等により、高山植物の生育地が荒廃し、貴重な高山植物の衰退が懸念されています。

平成16年、植生荒廃の著しい登山道周辺において、高山植物の現況と、将来的に荒廃した植生の復元を図るため、関係する行政機関、学識経験者、山岳会、自然保護団体、NPO等を含めた幅広い分野の専門家による検討会を立上げ、植生の復元・維持管理のための具体的な方法等に関する検討を行い、それを基に方針を立てボランティアの協力の下、翌年度より植生復元事業を実施しています。

◎年度別マットによる敷設経過

年 月 日	敷 設 箇 所	面積 (㎡)	参加者(人)
17. 9. 29	天狗荘裏	210	26
18. 9. 21	天狗荘裏	210	30
19. 9. 19	伊那前岳八合目	210	36
20. 9. 18	乗越浄土・伊那前岳九合目・登山道沿い	213	31
21. 9. 02	駒ヶ岳頂上山荘横(鞍部)	202	31
22. 9. 14	天狗荘裏・伊那前岳方面	200	33
23. 9. 15	天狗荘北西・伊那前岳方面の新規と補修	191	36
24. 9. 12	駒ヶ岳山頂等・伊那前岳方面の新規と補修	235	36
25. 9. 12	極楽平周辺・三の沢岳登山道周辺	140	29
26. 9. 11	頂上山荘横・伊那前岳方面の新規と補修	156	46
27. 10. 13	天狗荘裏・頂上山荘周辺・伊那前岳方面	(荒天のため不実行)	
計		1,967	334

注) 参加者には、ボランティア、行政機関等が含まれる。

2 平成27年度の取り組みについて

(1) マット敷設箇所の選定

26年度の植生復元対策調査及び24年度の検討会の意見等を踏まえ、木曾駒ヶ岳登山のルート进行调查しました。

過去10年間敷設作業を実施してきた中で、登山道沿いに見られた荒廃地に対しては、概ねマットの敷設は終わっていますが、一部の区域では植生回復前のマット劣化に伴う再度敷設及び、広く裸地化して

きた箇所への新規敷設の必要性が生じており、ボランティアによる作業の効率性も勘案して、今年度は天狗荘裏、頂上山荘周辺、伊那前岳稜線で新設44㎡、補修106㎡の計150㎡を計画しました。



平成27年度敷設予定箇所 位置図



木曾駒ヶ岳 天狗荘裏の状況

(中央グリーンロープの右側が過年度マット敷設箇所)

(2) 植生マット敷設

当初、9月10日に公募によるボランティア及び関係者、局署職員を含め総勢47名参加で計画しましたが、台風等の影響により作業は中止となり、その後も2回計画しましたが、天候不順等のため中止となり、平成17年度から毎年実施してきた敷設作業が初めて不実行となりました。

最終の10月13日は、木曾駒ヶ岳にも初冠雪となった時期と重なり、降雪の中、稜線小屋までマット等の資材運搬を行ったものの、降雪と凍結のため本作業は断念したところで、不実行箇所については来年度の実施で計画したいと考えています。

(2) 「城山史跡の森」 自然再生・NPO等活動拠点整備事業

1 「城山史跡の森」における「城山史跡の森倶楽部」及び地元自治体等との協働における森林整備及び森林環境教育の実施

木曾町福島市街地の北西に位置する城山国有林は、戦国時代木曾氏によって築かれた山城である福島城跡や木曾義仲にまつわる権現滝など伝承のある史跡等に恵まれ、木曾福島駅から比較的短時間で木曾ヒノキ、サワラ、モミ等の大径木や季節ごとの植物観察等が気軽にできるコースとして県内外からの観光客が増加しています。

「城山史跡の森倶楽部」が主体となって実施する「城山史跡の森」の森林整備等に対し、当センターでは支援、協力を行っています。

また、「城山史跡の森」は、木曾川下流域の人たちとの交流の場として活用されています。

(ア) 長野県指定、希少野生植物の増殖・保護活動

城山国有林「城山史跡の森」には、長野県希少野生動植物保護条例の指定を受けているササユリ、ヤマシャクヤク、カザグルマや、各地でも保護活動が盛んになっているカタクリの自生地があります。

今年度も、カザグルマとササユリの自生地において整備を行いました。

カザグルマの自生地においては、「城山史跡の森倶楽部」会員の皆さんとともに、生育を阻害するクズの刈り払いと根部への薬剤処理などの作業を11月に行いました。

このほか、本数調査や増殖・保護活動も継続して行っています。

◎ カザグルマ自生地の整備



自生地の整備とクズ根への薬剤処理（黄色の部分）

ササユリの自生地では、11月に林床の整備と播種作業を倶楽部会員の皆さんとともに実施しました。

自生地では開花時期の5月下旬にイノシシによるものと見られる食害が発生し、センサーカメラによる継続観察を行う中、その後の被害拡大はありません

でしたが、ここ数年の間に食害が発生していることから、28年度は防護柵の設置を行い、引き続きセンサーカメラによる実態調査を同倶楽部はじめ関係機関等と連携して取り組んでいきたいと考えています。

◎ ササユリ自生地の整備



自生地の整備とササユリの播種

◎ カタクリの調査

平成25年度	41本を確認
平成26年度	41本を確認
平成27年度	54本を確認



カタクリ（27年5月）

◎ ヤマシャクヤクの調査

平成25年度	194本を確認
平成26年度	269本を確認
平成27年度	264本を確認



開花前後のヤマシャクヤク（26年4、5月）

◎ カザグルマの調査

平成25年度	184本を確認
平成26年度	130本を確認
平成27年度	139本を確認



カザグルマ（27年5月）

◎ ササユリの調査

平成25年度	24本を確認
平成26年度	34本を確認
平成27年度	27本を確認



開花前後のササユリ（27年6月）

(イ)「城山史跡の森倶楽部」等が行う遊歩道等の整備及び植物観察会活動への支援

城山史跡の森倶楽部は、「城山史跡の森」の国有林のうち、城山風致探勝林（レクリエーションの森）に指定されている区域について、平成16年度に木曾森林管理署と「城山史跡の森における森林整備等の活動に関する協定書」（対象面積77.9ha）を締結し、協定に基づき歩道や森林整備作業、地域や上下流域の交流を図りながら森林環境保全意識の啓発活動や多様な体験活動を実施しています。

当センターでは、同倶楽部の活動全体を支援する立場で、情報の提供や助言、現地案内、技術・安全指導、道具の貸与など協力を行っています。

① 遊歩道等の整備

4月12日、観光シーズンを迎える前、自然散策等を安全かつ快適に楽しんでいただくため、城山史跡の森倶楽部会員とともに、「史跡の森」の遊歩道の刈り払いなどの整備を行いました。



遊歩道整備（ササの刈り払い、敷板の張り替え）

② 自然観察会、小鳥の巣箱掛け等

【自然観察会】

城山史跡の森倶楽部主催（当センター主催）の植物観察会が、4月と10月に行われました。

4月29日の観察会では、名古屋市民のほか木曾郡内の参加者あわせ70名参加し、植物に詳しい県植物研究会員の講師や同倶楽部会員の案内のもと、約8キロの道のりを植物や史跡など、芽吹きはじめの森林の中で植物観察と散策を満喫していました。



春の植物観察会の様子



フデリンドウ（平成27年4月）

【小鳥の巣箱掛け】

11月7日、小鳥の巣箱掛け作業を城山史跡の森倶楽部会員など13名が参加して実施され、当センターからは2名が協力しました。

小鳥の巣箱掛けは平成21年度から毎年実施しており、当森林に多く棲むシジュウカラなどの小型鳥類を対象に巣箱を作成しています。

以前設置して古くなった巣箱27箱を取り外し、今年度地元の方が丹念に作成した新しい巣箱37箱を新たに設置しました。

取り外した巣箱の半数で営巣や利用した形跡が確認され、来年の繁殖期でも多くの小鳥たちに巣箱を利用してもらえるよう作業を行いました。



巣箱掛け



コケ類が敷き詰められ
産座のあった巣箱

ウ「城山史跡の森」に生育する木曾五木のひとつ「コウヤマキ」の後継稚樹の育成

概要と状況

コウヤマキは日本固有の常緑針葉樹で、高野山に多くみられることからその名に由来するといわれ、一科一属一種の極めて特異な樹種です。

用途は建築、器具等に用いられ、水に強くて腐りにくい特徴から、古くから風呂桶や船舶等の用途にも使われていました。

木曾谷地域におけるコウヤマキの生育箇所は限られていますが、「城山史跡の森」の遊歩道の沿線には群をなして生育している箇所があります。

コウヤマキの天然稚樹育成のための調査プロット（1×1m）を、平成21年度に5箇所設定し継続して観察を行っています。

プロット周辺は、木曾ヒノキ、サワラ、モミ等が林冠を形成し、下層はホオノキ、リョウブなどの広葉樹が占有して春から秋にかけての林床への照度は弱く、発芽条件が整わないと思われることから、後継稚樹の育成を目的とした補助作業として平成21年度～22年度に除伐を実施しました。

今年度の稚樹の調査を実施した結果、各プロット内のコウヤマキの稚樹は2～15本で、そのうち5本の新しい発芽が確認されました。



コウヤマキ



コウヤマキの稚樹

2 森林環境教育支援

学校と連携した森林環境教育の実施

(1) 木曽青峰高校の体験学習

木曽町に所在する木曽青峰高校では、森林環境教育の観点から新入生を対象に、ここ数年、体験学習として上松町小川入国有林内の赤沢自然休養林内で、森林散策、自然観察と遊歩道へのチップ敷き作業を行っています。

今年は5月29日、地域の遺産である木曽ヒノキの天然林を知り、この遺産を活かすためのボランティア体験学習を行うことで、地域貢献の意義を学習する目的で、1年生152名と教職員15名が、8班に分かれ木曽森林管理署・NPO法人木曽ひのきの森・当センター職員等の指導のもと作業体験に汗を流しました。

また、生徒達は、休養林内の「千本立、奥千本」と名付けられている林木遺伝資源保存林（木曽ひのき林）まで、地域の森林・林業の歴史や天然林成立経緯の説明を受けながら森林散策しました。

地域の人でも、普段入ることが出来ない、樹齢300年を超すといわれる天然ヒノキが林立する森に足を踏み入れ、生徒達は感動や感心をしていました。



森林散策

(2) 犬山中学校の総合学習

愛知県犬山市の犬山中学校は、近くに木曽川が流れており、その川との関わりが深いことから、上流域である木曽地域において「自然を守り育てる心を育むとともに、日本の豊かな自然に触れ、その仕事に携わっている人の考えに触れる」ことを目的に自然や文化を学ぶ総合学習を毎年行っています。

この総合学習は、木曽地域に3日間滞在し行われるもので、5月19日は上松町の赤沢自然休養林で実施されました。

2年生の生徒225人が①遊歩道への木製チップ撒き、②記念植樹、③熊被害防止のテープ撒き作業の3つのグループに分かれそれぞれ体験しました。

作業に先立ち、赤沢自然休養林で整備等の活動をしているNPO法人「木曽ひのきの森」の会長から水源の大切さや、上下流域の関わりなど



チップ撒き作業

について話を聞きました。

(3) 上松技術専門校の体験学習

長野県上松技術専門校は、木工の技術を習得する単年度修学の職業訓練校です。森林の役割と維持管理の大変さ・大切さや木曾の林業の歴史を学び、木材の有効活用を意識づけることを目的として、毎年林業体験を行っています。

5月8日(金)に、訓練生44名が、熊による皮剥ぎ被害を防止するため、ヒノキの幹にテープを巻く作業を実施しました。

作業終了後は、赤沢自然休養林内を散策し、木曾ひのきの歴史等について学びました。

木曾森林管理署と当センターで作業の指導と散策の案内を行いました。



説明を聞く訓練生

(4) 上松中学校の体験学習

木曾郡上松町の上松中学校の三年生50人が7月24日(金)、上松町に所在する赤沢自然休養林の散策及び近くの森林で林業体験(除伐、クマよけテープ巻き)を行いました。

この活動は、町の基幹産業になっている林業への理解を深めてもらうことを目的に、毎年実施されています。

午前は、ヒノキの林の中で三班に分かれ、木曾森林管理署、当センター職員の指導の下、生育の邪魔になる雑木をノコギリで除伐するとともに、倒木や植物の繁茂する急斜面で足場を確保しながら、ヒノキの幹にクマよけのテープを巻きました。

山仕事をしたことのない生徒たちには大変な仕事でしたが、徐々に作業にも慣れ、予定した区域を実施することができました。

午後は、NPO木曾ひのきの森、木曾森林管理署、当センター職員が休養林散策のガイドを行いました。

伊勢神宮御神木の説明ではNPOの方の木遣りに合わせ、相づちを入れるコマもあり、木曾の森林の長い歴史と伊勢神宮とのつながりなども学びました。

参加した生徒からは「初めての林業体験で、斜面で木を切るのは難しく、林業の大変さが分かった。」などの感想があり、また、先生からは「子供たちは、森林の大切なことは理解しているが、触る機会が少ないので良い体験になったのではないか。」との意見が出されました。



テープ巻き作業

第3 支援体制の整備

1 地元自治体・NPO等の関係団体に対する支援

(1) 木曽郡植樹祭

長野県木曽地方事務所や自治体及び林業関係団体が主催する木曽郡植樹祭（木曽森林管理署、当センター後援）が紅葉が見頃の中、10月17日（土）に木祖村のやぶはら高原こだまの森で行われました。

地元住民、地域関係者をはじめ林業関係者、日進市をはじめとする下流域住民（5自治体関係者）ら約430人が参加し、ヤマザクラ、ヤマモミジ等の植樹を行ったほか、ひのき林での雪起こし作業、遊歩道へのウッドチップ敷等こだまの森の整備に汗を流しました。



植樹をする参加者

(2) 木曽地区みどりの少年団交流集会

木曽地区のみどりの少年団が一堂に会し、緑豊かな自然の中で互いに交流し、共同作業や森林・林業その他自然に関する学習活動を通じて相互の連携を深め、緑豊かな心を育むことを目的とした、木曽地区みどりの少年団交流集会が7月30日（木）県木曽地方事務所の主催で開催され、当センターも技術指導のために参加しました。

当交流会は木曽地域の町村で毎年実施されているものですが、今年は木曽町木曽駒森林公園を会場に11の少年団、引率教員、主催者、指導者等含めて約155名が参加しました。



プランター作り

団毎による、みどりの少年団活動発表や、木製の名札作りや自己紹介後、木や山に関するフィールドビンゴ、来年の全国植樹祭で使用するプランター作りを行い交流を深めました。

団員からは、「プランター作りは、全国植樹祭に使われるので一生懸命取り組みました。」「フィールドビンゴは、森林の宝ものを探すビンゴゲームが楽しかった」など感想が聞かれました。

(3) 木曾川水源地域の森造り協力事業 NPO法人 緑の挑戦者

名古屋市のNPO法人、緑の挑戦者は、木曾郡内3町村と森林整備協定を結び、木曾川下流域の市民を募集し森林整備をしています。

当センターでは該当町村の派遣依頼を受け、作業用具の貸し出しと技術指導を行いました。

6月6日(土)は木祖村の「こだまの森」で企業で参加された方をはじめ家族連れなど39名が参加し、カラマツ林の下層木を中心に除伐作業が行われました。



除伐作業の様子



明るくなった林内

(4) 「ふれあいの森」森林整備 特定非営利活動法人 地球緑化センター

特定非営利活動法人 地球緑化センターは、木曾森林管理署と「ふれあいの森」森林整備協定を結び、ボランティアを募って赤沢の森林整備をしています。

今年度は6月と9月に延べ58名がアスナロの除間伐に汗を流しました。

本活動は森林学習と森林整備を併せて行っており、宿泊が伴うことから毎回参加費を個人負担し活動をしていることに参加者の強い熱意が感じられます。当センターでは、木曾森林管理署の担当者と連携を図りながら、作業用具の貸出しや技術指導などの支援をしています。



除伐作業と実施後の林内

2 木曾川下流住民による森林整備に対する支援

(1) 「平成の名古屋市民の森づくり」事業の支援

名古屋市では、名古屋城本丸御殿復元事業で、木曾ヒノキが材料として使用されることから、使用するだけでなく植栽、育樹を行い上流域である木曾地域の豊かな自然環境を将来に残そうと、「市民による森づくり」に取り組んでいます。

5月16日（土）に名古屋市からの一般募集市民120名と関係者あわせて約200名が木曾町の町有林においてヒノキやクヌギなどの苗木を植えました。

植樹された苗木には参加者のネームプレートを付けて、次に訪れたとき確認ができるよう配慮されていました。

また、開会式では協力団体の技術者がカラマツの伐倒実演を行い、参加者からは倒れるときの迫力に歓声が上がっていました。

当センターでは、職員派遣依頼を受けて作業用具の貸し出しと、技術指導を行いました。



植樹をする参加者

(2) 木祖村・日進市合同森林整備

愛知県日進市は、木曾川の水の恩恵を受けていることから、木曾川の源流である木祖村と友好自治体提携を締結して交流を深め、毎年「平成日進の森」（小木曾国有林）において合同で森林整備を実施しています。

5月9日に（土）に日進市の住民や木祖村の職員、村議など約70名が参加し、除伐等の森林整備を行い、午後からは環境省の「平成の水百選」に選ばれている水木沢天然林を散策しました。

10月17日（土）には、合同育樹祭（木曾森林管理署、当センター後援）が行われ、両市村の職員や中学生、一般参加者ら約160名は、8班に分かれて除伐や、つる切り等の育樹作業を行いました。

水源の森を守り、上下流域に住む人が交流する催しで今回で23回目となり、当センターからは木祖村からの依頼で、式典出席、作業指導、ヘルメット、手ノコの貸し出しを行いました。



除伐作業をする中学生

3 小中学校の教職員を対象とした森林・林業体験学習会の実施

8月6日（木）に木曾森林管理署管内の「城山史跡の森」ほかで、木曾地域の教職員を対象とした「森林・林業体験学習会」を実施しました。

この学習会は、児童・生徒を教える立場である小・中学校の教職員向けに、森林・林業について理解を深めてもらうとともに、森林環境教育の重要性やその知識を高めてもらうことを目的に、長野県と共催により平成14年度から実施しているもので、今年で14回目の開催となります。

当日は、木曾地域の教職員4名、関係者6名、計10名で学習会を開催しました。

午前中は、御料館（旧帝室林野局木



巣箱づくり



木曾地域の歴史を学ぶ

曾支局）において、木曾地域の歴史や林業の変遷について学ぶとともに、木材を使った工作体験として野鳥の巣箱作りに取り組んでももらいました。

午後からは、城山史跡の森を散策しながら、当史跡の森の生い立ちや植物、森林の観察、国有林が実施している治山事業について学びました。

また、木曾地域でもクマやイノシシ等による農作物や樹木への被害が年々増加していることから、学校の周辺に棲息する野生動物の実態把握と使用方法を覚え

るため、センサーカメラを実際に現地に設置しました。

参加した先生からは、「センサーカメラで学校周辺の野生動物の生息状況を観測したい。」「御料館は木曾の自然や歴史等が参考になるので切口を考えて教育計画を検討したい。」等の感想が寄せられました。



御料館前にて全員で

4 森林ボランティア・NPO連携推進会議の開催

森林ボランティア・NPO連携推進会議は、当局管内の富山、長野、岐阜、愛知の4県で活動している森林ボランティア団体・NPO等が一堂に会し、講演会や意見交換会、市民参加型のワークショップを実施するイベント「森・ふれあいフェスタ」を開催・運営することを通じ、団体等の更なる資質の向上と連携強化を図るとともに、広く一般市民に対し、国民参加の森づくりへの理解や、森林環境教育の重要性をPRすることを目的に今年度も開催しました。

10月2日(金)・3日(土)の2日間、長野県下諏訪町の東俣国有林(南信森林管理署管内)及び、あすなろ公園において、「森林ボランティア・NPO連携推進会議」と関連イベント「森・ふれあいフェスタ」(連携推進会議実行委員会、中部森林管理局主催、長野県及び下諏訪町共催)を開催し、森林ボランティア団体・NPO法人など11団体と、森林管理局署の職員等、あわせて52名が参加しました。



説明を聞く参加者

諏訪地方において、7年に一度行われる「御柱祭」が平成28年度に実施されることから1日目は参加団体の見識を広げるため、この「御柱祭」について講習会を実施しました。伐採された御柱用材が置いてある東俣国有林の現地において、南信森林管理署職員から御柱と国有林の関係について、下諏訪町議会議員の宮坂氏から御柱の歴史等についてそれぞれ説明があり、参加者たちは関心を持って聞いていました。

その後、あすなろ公園に移動し、2日目に実施予定のワークショップのうち、「木工細工」「竹とんぼ作り」「ヒノキ箸づくり」について、一般来場者に対し誰もが対応できるように講習会を行いました。



伐採された御柱

2日目は、今年で11回目となった恒例の「森・ふれあいフェスタ」を開催しました。

爽やかな秋晴れの下、大勢の親子連れ等が訪れ、今年初めて実施した木製のパーツを組み立てるミニイス作りや、土からできた不思議な絵の具を使ったドパスアート、その他丸太きりやバームクーヘン作りなど、様々な体験を楽しみました。

また、下諏訪町のゆるキャラ「やしまる」と「万治くん」の登場で会場はさらに盛り上がり、延べ700名の参加者に木や自然素材の数々と触れ合ってもらえる機会を作ることができました。

参加した各署(所)の職員も様々なスキルを持った団体の技術と接する機会となり、2日間をとおして充実した連携・交流の場となりました。

【参加団体】

- ・NPO法人きんたろう倶楽部
- ・NPO法人戸隠森林植物園ボランティアの会
- ・NPO法人やまぼうし自然学校
- ・一期会
- ・NPO法人森林環境
- ・NPO法人地球緑化センター
- ・城山史跡の森倶楽部
- ・NPO法人飛騨小坂200滝
- ・NPO法人恵那山みどりの会
- ・NPO法人名古屋シティフォレスト倶楽部
- ・国土防災技術株式会社



ミニイス作り



かんなくずプール



木工細工



竹とんぼ作り



丸太切り



ドパスアート



ヒノキ箸作り



バームクーヘン作り



竹笛作り

5 木曾地方支援イベント

(1) 国有林見学会

木曾森林管理署管内の赤沢自然休養林で、木曾川下流域の住民を対象とした「木曾の国有林見学会」を、5月28日(木)と11月5日(木)に開催しました。

この催しは、江戸時代から現在まで深い繋がりをもつ木曾地域と名古屋の関係や、森林・林業について理解を深めてもらうことを目的に、下流域の都市住民の方々に、木曾川源流の国有林を訪ねてもらい、木曾地域の林業の歩み、木材輸送方法（伐採地、小谷狩り、森林鉄道、林業遺産）及び名古屋の熱田白鳥貯木場にたどり着くまでの運材技術の変遷や木材の生地を実際に見聞きしていただく学習講座です。

名古屋市民を中心にそれぞれ40名以上が参加し、ガイド等を行う国有林職員7名により実施しました。

秋の講座は、本番に先駆け、10月22日(木)に、当見学会の予備知識を深めるために「熱田白鳥の歴史館」において、歴史と木材の利用をテーマとした展示の見学や事前学習会を行いました。

両日とも、当日のバスの中では、織田信長が安土城を築城した物語を映画化した「火天の城」が上映され、木曾への想いを膨らませながら木曾ヒノキの生地へと遡っていきました。

赤沢自然休養林には11時頃到着し、暖かな日差しの中で昼食をとり、森林鉄道で森林と溪流が織り成す景色を眺めながら終点「丸山渡停車場」に移動し、職員のガイドにより、歴史とともに育まれてきた樹齢約三百年余りの木曾ヒノキやサワラが生い茂る林内を散策し、木曾の林業の歴史や運材方法、伊勢神宮との関わり、木曾五木の樹種の見分け方や特徴などを学びました。



参加者全員で（秋季）



説明を聞く参加者

参加者からは、「普段の都会生活とかけ離れた所に行けて良かった。」「森林・せせらぎ・小鳥のさえずり・静けさ等普段は感じ取ることができない体験ができた。」「チップの道が歩きやすく足が喜んでいます。」「楽しかった。」「また来てみたい。」等沢山の感想が寄せられました。

なお、この催しは木曾復興支援の取組として位置づけており、秋の開催時には、チャリティーとして参加費用の中に地元の特産品等の購入代（お土産）が含まれていました。

(2) 王滝・木曽支援ツアー

木曽地方の振興及び豊かな自然・文化を通じて、森林・林業・水資源についての理解を深めていただくことを目的に、公益財団法人おんたけ休暇村、中部森林管理局及び木曽広域連合が連携し、『王滝・木曽支援ツアー』を8月29日(土)～30日(日)に開催しました。

木曽川下流域の住民を中心に呼びかけを行ったところ、名古屋市をはじめとした愛知県、岐阜県等から15名の方々に参加いただきました。

早朝より集合した参加者は、出発地である名古屋事務所に隣接する「熱田白鳥の歴史館」において林業の歴史と木材利用促進をテーマとした展示物の見学や、移動する車中において、かつては300日かけて熱田白鳥まで木材が運ばれていたことなど、木曽の林業の歴史や生活について事前学習を行いました。

木曽路に入った一行は、最初に南木曽町の勝野木材株式会社を訪問し、間伐から一貫生産の製材ラインやモデル住宅を見学しました。



製材工場を見学

勝野智明社長から、「森を育てるには適切な間伐が大切で、水源涵養、土砂の流出防止、温暖化防止などに役立っている。」など、間伐により山を守り育てることの大切さを分かりやすく説明していただきました。

続いて、王滝村へ向かい、水資源機構愛知用水総合管理所牧尾ダムを見学しました。

小河所長より、愛知用水牧尾ダムは木曽川水系の水資源として、愛知県、岐阜県に農業

・工業・水道用水を供給する大事業が行われた歴史について、説明がありました。

また、御嶽山噴火災害の対応として、ダム湖に灰が流れ込むかどうか注目していると説明がありました。

最後に、御岳国有林において、長野県西部地震復旧地や、昨年の御嶽山噴火災害での土石流に備えた堰堤工事等について、木曽森林管理署の担当者から説明を受けました。その後、宿泊施設へ移動し、明日への英気を養いました。

二日目は、王滝村から上松町に移動し、当センター職員の案内により、赤沢自然休養林を散策しました。江戸時代から300年余の時間を刻み、見事に成長した木曽ヒノキが鬱蒼と生い茂る林内を散策し、木曽の林業の歴史や運材方法を学びました。

参加者からは「製材工場を見学して、間伐材がこれほど活用されているとは良いことだ。」「王滝村は初めて訪れたが、緑が多くて空気もうまい。ダム建設の苦労を知り、上下流のつながりを強く感じた。」「道の駅で木曽の野菜や特産品を買えたことも、小さな支援に協力できて良かった。」などの感想が寄せられました。



牧尾ダム見学

年間の活動及び行事等

月	日	活 動 内 容
4	6	木曽青峰高校入学式（木曽町）
	7	林業大学校入学式（木曽町）
	8	水資源機構名古屋支社との打合せ（名古屋市）
	12	城山史跡の森 遊歩道整備（木曽町）
	18	木曽川水の始発駅総会（木祖村）
	22	城山史跡の森 木曽青峰高校森林散策（木曽町）
	23	森林ボランティア・NPO連携推進会議第1回実行委員会（下諏訪町）
	26	NPOひのきの森総会（上松町）
	27	城山史跡の森 カタクリ自生地調査（木曽町）
	29	城山史跡の森 春の散策会（木曽町）
5	7	三浦実験林50年史編集会議（信州大学）
	8	上松技術専門学校体験林業（赤沢自然休養林）
	9	平成日進の森林整備（木祖村）
	12	城山史跡の森 ヤマシャクヤク自生地調査（木曽町）
	13	木曽町林業振興会総会
	13.14	ふれあい研修講師（下呂市）
	16	平成の名古屋市民の森づくり植付作業（木曽町）
	18	城山史跡の森 カザグルマ自生地調査（木曽町）
	19	犬山中学校木曽総合学習・岐阜農林高校散策（赤沢自然休養林）
	21	本郷小学校森林散策（赤沢自然休養林）
	28	木曽の国有林見学会：春季（赤沢自然休養林）
	29	木曽青峰高校林業体験（赤沢自然休養林）
6	6	中日親友隊森林整備（王滝村） 緑の挑戦者森林整備（木祖村）
	7	水と緑の感謝祭 森林散策（王滝村）
	8	木曽町行政懇談会
	14.15	NPO法人地球緑化センター森林整備（上松町）
	18.19	木曽悠久の森 第1回管理委員会（上松町）
	24	三浦実験林調査（王滝村）
	30	高山植物保護管理協議会総会（上松町）
7	7	木曽駒ヶ岳植生復元注意看板設置
	13	木曽駒ヶ岳植生復元注意看板設置
	14	田の原天然公園整備作業（王滝村）
	22	フォレストワーカー森林散策（赤沢自然休養林）
	24	上松中学校林業体験（赤沢自然休養林）
	28	阿寺溪谷踏査（大桑村）
	29	田立の滝踏査（南木曽町）
	30	「緑の少年団交流集会」（木曽町日義木曽駒森林公園）

月	日	活 動 内 容
8	6	教職員森林・林業体験学習会（木曾町）
	7	愛知県立阿久比高校林業体験（王滝村）
	8	長野県学校農業クラブ研修会森林散策（木曾町）
	17	森林ボランティア・NPO連携推進会議第2回実行委員会（下諏訪町）
	19~21	木曾悠久の森 現地見学会（王滝村外）
	29.30	王滝・木曾支援ツアー実施（王滝村外）
9	6	NPO法人地球緑化センター森林整備（上松町）
	8	木曾駒ヶ岳植生復元資材運搬
	11	鳥居峠踏査（木祖村～塩尻市）
	15	低コストシカ対策検討会（木祖村）
	18	木曾悠久の森みどりの女神記念植樹（赤沢自然休養林）
	19	木曾悠久の森写真コンテスト表彰式（木曾町）
	30	油木美林踏査（木曾町）
10	2.3	森林ボランティア・NPO連携推進会議（下諏訪町）
	7	木曾悠久の森 第2回管理委員会（長野市）
	11	名古屋市熱田区民祭木工細工
	13	木曾駒ヶ岳植生復元作業資材運搬・注意看板撤去
	17	木曾郡植樹祭（木祖村）
	17	日進市・木祖村合同育樹祭（木祖村）
	19~21	三浦実験林更新調査（王滝村）
	22	三浦実験林50周年講演会（王滝村）
	23	三浦実験林現地見学会（王滝村）
	25	城山史跡の森 秋の散策会（木曾町）
30	馬籠峠踏査（南木曾町）	
11	5	木曾の国有林見学会：秋季（赤沢自然休養林）
	7	城山史跡の森 小鳥の巣箱掛け・ササユリ自生地整備（木曾町）
	9	森林ボランティア・NPO連携推進会議第3回実行委員会（下諏訪町）
	11	木曾悠久の森 植生部会（長野市）
	12	助六実験林更新調査（王滝村）
	14	木曾悠久の森講演会（大桑村）
	19	城山史跡の森 コウヤマキ更新調査（木曾町）
	25	城山史跡の森 カザグルマ自生地整備（木曾町）
12	2	第2回木曾地域の保護林設定検討部会（長野市）
	2	木曾悠久の森 第3回管理委員会（長野市）
	17	伊那谷の林業を考える研究会（信州大学）

月	日	活 動 内 容
1	14	長野県産業保険研修会（松本市）
2	10	森林・林業体験交流促進事業打合せ（上松町）
	15	森林・林業体験交流促進事業打合せ（王滝村）
	16.17	中部森林管理局・森林総合研究所 技術交流会（南木曾町外）
	19	森林と緑をはぐくむ集い（木曾町）
	24	長野県民有林連携推進会議（松本市）
3	2	林業大学校卒業式（木曾町）
	2	長野林政協議会木曾谷流域部会（上松町）
	3	木曾清峰高校卒業式（木曾町）
	7	パズルラリー協力依頼（木曾広域連合外）
	8	パズルラリー協力依頼（木祖村外）
	9	木曾悠久の森 森林総合利用・地域振興専門部会（上松町）
	10	パズルラリー協力依頼（南木曾町外）
	22	城山史跡の森倶楽部総会（木曾町）
	25	森林・林業体験交流促進対策検討委員会（王滝村）